

川をつくる

—大和川のつけかえ工事—

2006年9月20日～12月10日

柏原市立歴史資料館

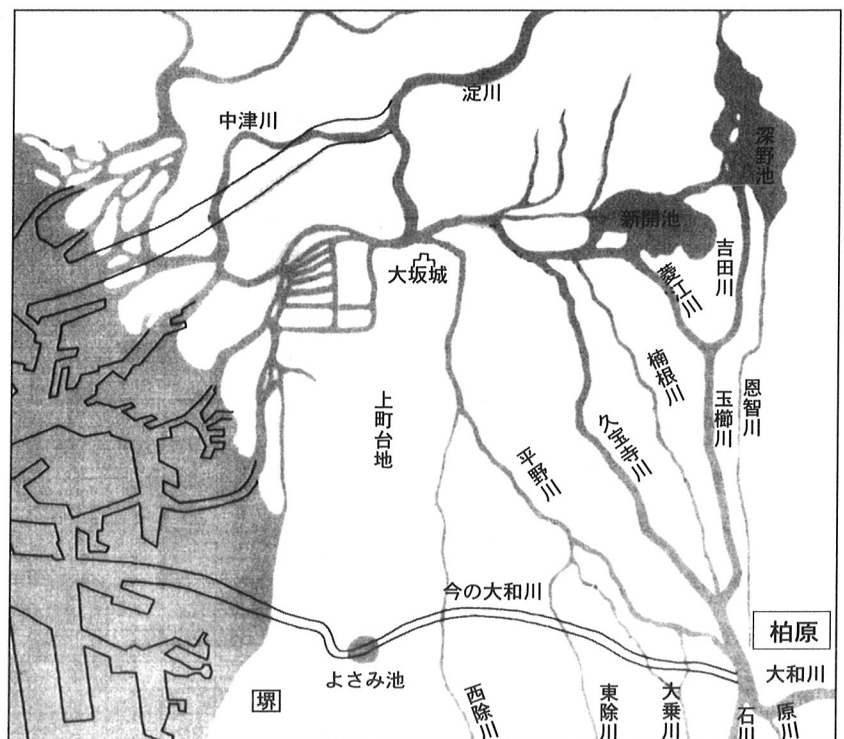
大阪の人たちに昔から親しまれている大和川。汚い川として有名になってしまいましたが、50年ほど前までは、泳ぐこともできるきれいな川でした。その大和川も少しずつきれいになってきていて、鮎が泳ぐ姿を見ることもできるようになりました。これからもっときれいにして、昔のようにきれいな川にもどしたいものです。

ところで、この大和川は、今から300年ほど前につけかえられた川なのです。柏原市役所の前から大阪湾まで、たいへんな工事をして新しい川をつくったのです。どうして川をつけかえなければならなかったのでしょうか。どのようにして川をつけかえたのでしょうか。その秘密をさぐってみましょう。

つけかえまでの大和川

つけかえまでの大和川は、久宝寺川（長瀬川）や玉櫛川（玉串川）など数本の川に分かれて流れ、大阪城の北で淀川に流れこんで海に流れていました。しかし、大雨になると水がうまく流れず、あちらこちらで堤防が切れたり、堤防から水があふれたりして洪水をおこしていました。何度もくりかえされる洪水に、食べるものさえなくなって、苦しむ人たちもいました。そして、大和川をつけかえてほしいと願う人たちが増えてきたのです。

しかし、つけかえはなかなか実現しませんでした。それは、つけかえに反対する人たちがたくさんいたからです。反対する理由は、新しい川ができると自分たちの土地がなくなるかもしれない、それまでなかった洪水が起こるようになるかもしれないなどでした。



つけかえ前の大和川

